

◆国語科の目標

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】



「話す・聞く」「書く」「読む」「言語・文化」に関して、目的や意図に応じ、理解した内容を効果的に活用し、根拠を明確にしながらかいたり、話したりし、ものの見方や考え方を深める。

【学びに向かう力、人間性等】

→ 知識・技能の獲得や、思考・判断・表現の充実に向け、粘り強く取り組む態度と、その取り組みの過程において自ら試行錯誤しながら学習を進めようとする態度を充実させる。

	単 元	学 習 内 容
一学期	1 深まる学びへ	「握手」：小説を読み登場人物の人物像を捉える。 「学びて時に之を習ふ」：長く受け継がれてきた名言に触れる。 「説得力のある構成を考えよう」：自分が心から訴えたいことを聞き手に届けるスピーチを考える。
	2 視野を広げて	「作られた物語を超えて」：文章における具体と抽象の関係を捉える。 「論理の展開を意識して書く」：グラフを基にして小論文を書く。 「書写」：行書（漢字と仮名を調和させて書く）
	3 言葉とともに	「俳句の可能性」：俳句の特徴について理解を深める。 「俳句を味わう」：俳句を読み味わう。 「言葉の釣り糸を垂らす」：適確に表現するための語彙力を高める。
二学期	4 状況の中で	「挨拶—原爆の写真によせて」：比喻や象徴的な表現に触れ文脈の中での意味を考える。 「故郷」：人の生き方や社会との関わり方を考える上での、読書の意義を理解する。小説を批判的に読む。
	5 自らの考えを	「複数の意見を読んで、考えよう」：文章内容について、討論したり、文章にまとめたりする。 「合意形成に向けて話し合おう」：多様な考え、価値観を持つ意見を生かしながら合意形成していく。
三学期	6 いにしへの心を受け継ぐ	「古今和歌集 仮名序」：音読を楽しむ。 「君待つと一万葉・古今・新古今」：歴史的背景を理解し和歌の世界に親しむ。 「夏草—「おくのほそ道」から」：表現の仕方や文体の特徴に着目して読み味わう。 「書写」：行書（書き初め）
	7 価値を生み出す	「それでも、言葉を」：筆者のものの見方や考え方を捉え、社会、人間について意見を持つ。
	8 未来へ向かって	「温かいスープ」：国際理解について考えを深める。 「私を束ねないで」：自分の可能性について考える。

※ 各学期、上記の単元の他に適宜、「文法」や「言葉の知識に関する事項」、「言葉の表現に関する事項」についての学習を行う。

※ 国語便覧や辞書は通年で利用する。

※ ワーク等の利用に関しては、担当の教師によって説明を行う。

※ 場合によっては、言語に関する通年の取り組みを行う。

○副教材：担当の教師により、年度当初に説明がある。

主に、家庭での学習を補助する問題集や漢字、文法の知識を付けるためのワーク、総合的な学習成果を測るためのテスト問題などを利用する。

また、3年間を通して使う資料集、文法テキストなどがある。

学習補助教材として、オンライン上のアプリやキュービナ等も利用する。

○評価について

・評価の観点…次の3観点について、ABCで評価する。

①知識・技能・・・・・・・・・・・・漢字の読み書き、国語文法、古典知識、書写など。

②思考・判断・表現・・・・・・・・文章読解、作文、スピーチ、聴き取りなど。

③主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の取組、課題の提出状況、持ち物など。

・評価方法

1、授業中の活動（態度・発言・自己評価・相互評価など）による意欲。

2、課題の提出、小テスト、実カテストなどを利用した調査による学習状況、発表、学習成果の確認。

○評定は、AAA 「5 または 4」
AAB 「4」
ABB・AAC 「4 または 3」
BBB 「3」
BBC・ACC 「3 または 2」
BCC 「2」
CCC 「2 または 1」

※ 上記を原則とするが、評価の基準に照らし合わせ、同じ評価であっても評定が変わる場合がある。特に、すべての観点の評価がAであっても「4」になることがあることに注意する。

※ 欠課が多い場合は、観点別評価がいずれもCまたは評価不能になる場合がある。

○学習方法

・毎日の授業に集中して取り組む。積極的な姿勢が内容の理解を深める。

・学習した内容を活かし、表現につなげる練習を意識的に行う。

・指示された提出物や課題は計画的に進め、期限を守る。わからなければ人に聞く。

・教科書の本文を繰り返し読むこと。特に古典の暗唱などは、繰り返し声を出して読むようにする。

・普段から本や新聞など文章に触れる機会を作る。

・文法は多くの問題にあたって慣れる。

・漢字は大きく、一点一画を丁寧な字で書くよう心掛ける。

○定期テストについて

国語においては、数年前から未実施である。

成績は、各単元の課題や小テストを利用した調査によって観点別の評価を行うが、それ以外に、国語の総合的な知識や理解度、主体的な学習の成果を測るために実カテストを利用した調査も実施していく。

それらの調査結果を基に総合的に判断し、評価する。